

# 女性歯科医師の考える理想の歯科医師像 —岡山大学病院歯科医師臨床研修を修了した 女性歯科医師へのアンケート調査の分析—

塩津 範子<sup>1)</sup> 桑山 香織<sup>1)</sup> 河野 隆幸<sup>1)</sup>  
武田 宏明<sup>2)</sup> 鈴木 康司<sup>3)</sup> 白井 肇<sup>1)</sup>  
吉田 登志子<sup>4)</sup> 鳥井 康弘<sup>1)</sup>

**抄録:**我々は、女性歯科医師のキャリア形成やライフプランに影響を与える要因を検討する目的で、平成18~24年度に岡山大学病院で歯科医師臨床研修を行った女性歯科医師188人を対象にアンケート調査を行った。そのうち、本稿では女性歯科医師が考える「理想の歯科医師像」について、テキストマイニングソフトを用い、分析した。回答者の理想の歯科医師像は、歯科治療の技術や患者との関係性のみではなく自身の環境に触れたものが多かった。全体で最も出現頻度が高いキーワードは「歯科医師」であり、以下「仕事」、「家庭」、「患者」、「両立」などとなった。分析結果から、女性歯科医師が考える理想の歯科医師像はワークライフバランスを重視していることが伺え、そのバランスの割合や重んじる部分は結婚、子供、就労、休職経験の有無といった状況によって異なると考えられた。女性のライフコースが多様化している現在、どの時期にライフイベントを行うことになっても、仕事との両立ができるようなサポート体制の整備や、男性歯科医師を含むすべての就労者にとって家族のことを考えやすい環境を整備することが大切である。

**キーワード:**女性歯科医師 理想の歯科医師像 アンケート調査 ワークライフバランス

## 緒言

厚生労働省の調査<sup>1)</sup>では、平成26年12月31日における全国の届出歯科医師数103,972人のうち女性歯科医師は23,428人(22.5%)で、平成24年の同調査と比較すると男性歯科医師の増減率は0.3%(263人)であるのに対し、女性歯科医師は4.9%(1,043人)も増加している。さらには、29歳以下では女性歯科医師の割合は43.6%である。これらのことから、女性歯科医師の割合が今後も増加していき、一般歯科医療、すなわち総合歯科医療の大きな担い手になることは間違いない。

近年、日本歯科医師会は、男女共同参画社会の実現のために内閣府男女共同参画局所管の男女共同参画推進連携会への参画やワーキンググループの設置などの取り組みを始めつつある<sup>2)</sup>。女性歯科医師自らがどのような理想の歯科医師像をイメージしているかを把握

することは、女性歯科医師が総合歯科医療の担い手として、全人的・統合型総合歯科医療の重要性を追求し、実践研鑽を行うことが出来る環境をつくるうえで大切な情報となると考える。

我々は、岡山大学病院で歯科医師臨床研修を行った女性歯科医師を対象に、女性歯科医師のキャリア形成やライフプランに影響を与える要因を検討する目的でWEBアンケート調査を行った。本稿では女性歯科医師の思い描く理想の歯科医師像に対する分析を行った。

## 対象および方法

### 1 対象者

平成18年度から平成24年度に、岡山大学病院で歯科医師臨床研修を行った女性歯科医師188人を対象とした。

### 2 方法

アンケート実施期間は、平成26年2月1日から3月

<sup>1)</sup> 岡山大学病院総合歯科(主任:鳥井康弘教授)

<sup>2)</sup> 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科医療教育統合開発センター歯科医学教育改革部門

<sup>3)</sup> 岡山大学病院経営戦略支援部

<sup>4)</sup> 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科医療教育統合開発センター歯学教育部門

<sup>1)</sup> Comprehensive Dental Clinic, Okayama University Hospital (Chief: Prof. Yasuhiro Torii) 2-5-1 Shikata-cho, Kita-ku, Okayama 700-8525, Japan.

<sup>2)</sup> Dental Education Reforming Unit, Center for the Development of Medical and Health Care Education, Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences

<sup>3)</sup> Hospital Management, Okayama University Hospital

<sup>4)</sup> Dental Education, Center for the Development of Medical and Health Care Education, Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences

表 1 アンケート調査項目の一覧

質問タイトル	対象者	設問内容
年齢などについてお答えください	全員	現在の年齢 歯科医師免許取得時の年齢 専門医, 認定医の有無
専門分野などについてお答えください	対象者	専門医, または認定医の取得時の年齢 専門分野は何ですか
結婚についてお答えください	全員	結婚について
お相手などについてお答えください	対象者	結婚時の年齢 結婚相手の職業
家族についてお答えください	全員	子供について
子どもについてお答えください	対象者	子供は何人いますか 第一子の出産年齢は
就労状況についてお答えください	全員	現在, 就労していますか
勤務状況についてお答えください	対象者	勤務形態は 勤務場所は 勤務形態が常勤以外の理由は何ですか
勤務の満足度についてお答えください	対象者	現在の勤務形態に満足していますか 満足している理由は何ですか 勤務に満足できない理由は何ですか
休業, 退職経験についてお答えください	対象者	休業, 退職したことはありますか 退職した時の年齢は 退職期間は 休業, 退職した理由は何ですか 復職時の不安は何ですか
結婚についての将来設計をお答えください	対象者	将来, 結婚を希望されますか
結婚後の就労についてお答えください	対象者	結婚後も仕事を続けたいですか その気持ちはどれくらいですか 辞めたい理由は何ですか
子供についての将来設計をお答えください	対象者	将来, 子供を持ちたいですか
出産後の就労についてお答えください	対象者	出産後も仕事を続けたいですか その気持ちはどれくらいですか 辞めたい理由は何ですか
今後の長期的な将来設計をお答えください	全員	5年後の長期的な歯科医師としての展望は 10年後の長期的な歯科医師としての展望は 20年後の長期的な歯科医師としての展望は 30年後の長期的な歯科医師としての展望は
仕事を行う環境についての考えをお答えください	全員	仕事を続けていく上で, 環境に関して何が必要ですか 仕事を続ける上であったら良いと思う制度や仕組みは
あなたの現在思い描く理想の歯科医師像をお答えください	全員	自由に記載してください

31日までとした。対象者には、事前に調査協力依頼書、同意書とともにアンケートのホームページのアドレス、パスワードおよびログイン ID を郵送等で配布し、期間中にアンケートのホームページにアクセスし、ID とパスワードを入力して回答するように依頼した<sup>3)</sup>。調査項目は、年齢や結婚の有無、現在の就労状況、将来

設計など全員に対する質問 13 問を含む全 38 問、所要時間は約 10 分程度である (表 1)。全質問内容のうち、自由記述形式である「あなたの現在思い描く理想の歯科医師像をお答えください」について、得られた回答が、結婚・子供の有無および就労・退職経験の有無によってどのような違いがあるか分析した。なお本研究

は、岡山大学病院疫学研究倫理審査委員会の承認（受付番号 781）下で実施した。

### 3 分析方法

以下の3分析は、Word Miner<sup>®</sup>（日本電子計算機株式会社，東京）を使用して行った。

#### 1) 分かち書き，データ修正，キーワード抽出

理想の歯科医師像に関するテキスト型データを分かち書きした後，構成要素の抽出を行った。分析する際，「子供」，「子ども」といった記載の違いや，「信用」，「信頼」といった類義語は別の構成要素として分類されるため，対象者が記載した原文を確認し，記載内容に変化が起きないように置換・修正を行った。その後，構成要素の中で意味を持たない助詞などの不要語句を除き，出現頻度が2以上の構成要素を抽出し，キーワードとして分析に用いた。

#### 2) 出現頻度による有意性テスト

抽出したキーワードについて，①結婚・子供の有無（既婚・有子者，既婚・非有子者，未婚・有子者，未婚・非有子者の4項目）および②就労・休職経験の有無（就労・休職経験者，就労・休職未経験者，非就労者の3項目）のそれぞれの分類項目に特徴的なキーワードを分析するため，出現頻度による有意性テストを行った。

#### 3) 構成要素変数の成分スコアによる布置図の作成

抽出したキーワードを①結婚・子供の有無，②就労・休職経験の有無の2つの分類について，キーワードと分類項目の関係性を観察するため，構成要素変数の成分スコアによる布置図の作成を行った。

## 結 果

### 1 回答者

アンケートを依頼した女性歯科医師188人中，「理想の歯科医師像」についての有効回答者は105人（55.9%）であった。有効回答者の平均年齢は29.9歳，歯科医師免許取得からの平均経過年数は4.8年であった。

有効回答者のうち，結婚・子供の有無について分類した場合，既婚・有子者，既婚・非有子者，未婚・有子者，未婚・非有子者がそれぞれ30人，29人，3人，

表2 各分類項目の構成人数

結婚・子供の有無	既婚・有子者	既婚・非有子者	未婚・有子者	未婚・非有子者
	30人	29人	3人	43人
就労・休職経験の有無	就労・休職経験者	就労・休職未経験者	非就労者	
	18人	67人	20人	

43人であった。就労状況について分類した場合，就労・休職経験者，就労・休職未経験者，非就労者がそれぞれ18人，67人，20人であった（表2）。

### 2 キーワードの出現頻度（表3）

出現頻度が2以上のキーワードは90種類，キーワードの合計出現数は611であった。最も出現頻度が高いキーワードは「歯科医師」で，有効回答者の53.3%が記載していた。次に「仕事」，「家庭」，「患者」がそれぞれ40.0%，31.4%，31.4%，その後は「両立」，「子供」，「育児」，「技術」，「出産」，「歯科治療」といったキーワードが続いた。

表3 キーワードの出現頻度

記載人数 (人)	割合 (%)	キーワード
56	53.3%	歯科医師
42	40.0%	仕事
33	31.4%	家庭，患者
27	25.7%	両立
21	20.0%	子供
20	19.0%	育児
17	16.2%	技術
15	14.3%	出産
14	13.3%	歯科治療
13	12.4%	環境
12	11.4%	自分，女性
10	9.5%	知識
9	8.6%	家事
8	7.6%	信頼，歯科医療，女性歯科医師，勉強
7	6.7%	社会，夫，提供，スタッフ
6	5.7%	家族，非常勤，開業，気持ち，時間，充実，大切
5	4.8%	貢献，専門，経験，向上，小児，歯科医院
4	3.8%	やりがい，活躍，希望，結婚，分野，常勤，職場，対応，地域，復職
3	2.9%	バランス，パート，一般歯科，母親，ブランク，勤務，寄り添い，生活，継続，健康，臨床，プライベート，医，自信，質，親，診療
2	1.9%	コントロール，サポート，小児歯科医，託児所，需要，安心，感謝，休職，協力，誠実，努力，無理なく，腕，治療方針，勤務形態，勤務時間，相談，短時間勤務，原因，収入，自分自身，客観的，体力，セミナー，笑顔，積極的，認定医

表 4 結婚・子供の有無による分類での理想の歯科医師像記載例

項目	回答例
既婚・有子者	「知識と技術の習得に妥協せず、向上心を持ち続ける。患者さんに寄り添える。歯科医師の仕事を楽しいと思える。公私ともに充実している。」 「セミナー等に積極的に参加しながら、家事や育児とバランスよく仕事をこなしていく歯科医師になりたい。」
既婚・非有子者	「女性として家族を一番に考えつつできる範囲で、自分の考えに近い尊敬できる歯科医師のサポートをしていきたい。」 「子育て、家事をしっかりとできるような無理の無い勤務形態で働き続ける。」
未婚・有子者	「子供との時間も大切にしながら、自分も社会に貢献したい。」 「地域で頼りにされる歯科医師。様々な質の高い治療を提供できる歯科医師。」
未婚・非有子者	「4～5年は常勤で働く（その間に自分の専攻している分野の認定医をとる）。結婚。子供を産む。非常勤で働く。子供が仕事を始めるまでは自分は非常勤で仕事を続ける。」 「子育てなど自分の経験を生かせるよう、働き方や働く内容が変わっていけばと思う。そのために勉強を続け、技術を磨きつづけてい。」

3 結婚・子供の有無と理想の歯科医師像

各項目における代表的な回答例を表4に示す。出現頻度による有意性テストでは既婚・有子者では「バランス」、既婚・非有子者では「家事」、「夫」、未婚・非有子者では「専門」が上位となっており、下位のキーワードはなかった。未婚・有子者においては上位のキーワードも下位のキーワードもなかった(表5)。

構成要素変数の成分スコアによる布置図を図1に示す。座標軸の上方では「家事」、「夫」といった家庭をイメージするキーワードが多いため「家庭の中での自分」と、下方では「治療方針」や「認定医」といった

表 5 結婚・子供の有無による分類でのキーワードの出現頻度による有意性テスト

上位	既婚・有子者	既婚・非有子者	未婚・有子者	未婚・非有子者
1	バランス	家事		専門
2		夫		

キーワードの出現頻度による有意性テストでは、各グループを有意に特徴づけるキーワードが上位に配置される。なお、未婚・有子者では、グループを特徴づけるキーワードはない。

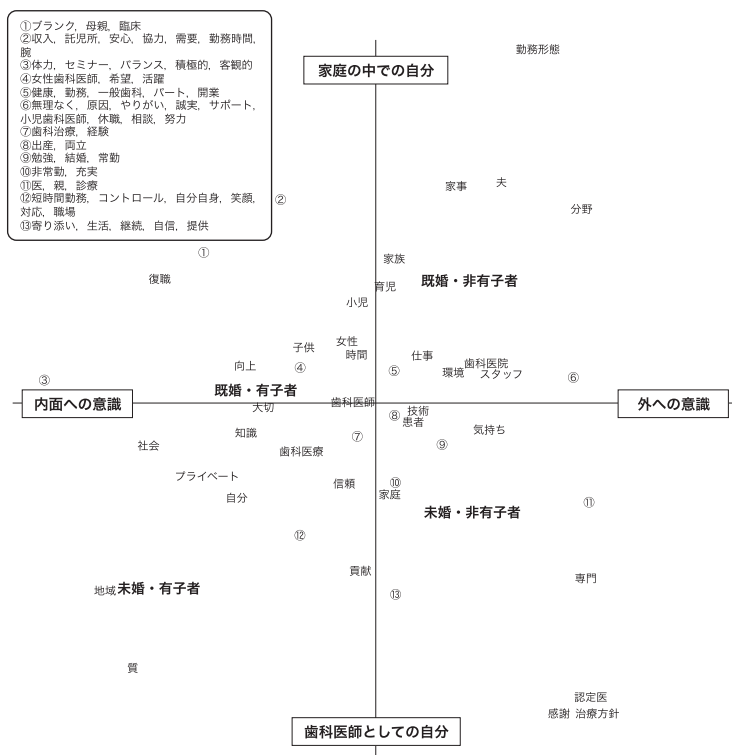


図 1 結婚・子供の有無における構成要素変数の成分スコアによる布置図

位置がほぼ同じキーワードについては丸付き数字で示す。それぞれのキーワードは、Word Miner<sup>®</sup>を用い、結婚と子供の有無を変数とした場合に算出された成分スコア1(横軸)、成分スコア2(縦軸)によって配置されている。原点(重心)に近いキーワードは平均的なキーワードであり、原点から離れたキーワードは特徴的なキーワードとなる。

表 6 就労・休職経験の有無による分類での理想の歯科医師像記載例

項目	回答例
就労・休職経験者	「歯科医師として知識や経験を兼ね備え、患者からもスタッフからも信頼されるドクターでありたいと思います。ただ、歯科医師という職業を続けながらも、女性として家庭や子育てをおろそかにせず、両立が大変ななかでも楽しみながら、うまくどちらもこなしていければ、それが理想です。自分が子をもつ母親として患者さんに接するようになってから、特に女性患者さんや小児患者さんへの対応がきめこまやかに出来るようになり、女性歯科医師だからこそ、母親だからこそ患者さんに出来ることあるのだと感じています。歯科医師として幅をもって活躍していきたいと思います。」
就労・休職未経験者	「患者さんにより良い歯科医療が提供できる知識と技術を身につけ、家庭と仕事の両立を図りながら、充実した生活を送る。」 「患者さんに寄り添い、負担の少ない最善な治療を提供できる歯科医師。」
非就労者	「地域に根差した歯科医療を行っていること。患者さんにとっていつでも最適な医療を提供できるように、技術の向上と知識の研鑽を怠らないこと。」 「患者さんのニーズに対応できる。仕事を通して社会に貢献していると感じることができる。新しい知識や技術を探求できる。家庭と仕事の両立ができる。」

歯科医師をイメージするキーワードが多いため、「歯科医師としての自分」と軸を名付けた。左方向では「体力」、「バランス」といった回答者自身に関するキーワードが多いため、「内面への意識」と、右方向では「専門」、「親」といった身近な他者や自身の外面に関するキーワードが多いため、「外への意識」と軸を名付けた。布置図の位置はそれぞれ、既婚・有子者は左側中間に、既婚・非有子者は右側上方、未婚・有子者は左側下方、未婚・非有子者は右側下方であった。また、既婚・有子者は「向上」、「大切」と、既婚・非有子者は「育児」、「家族」と、未婚・有子者は「地域」と、未婚・非有子者は「勉強」、「結婚」、「常勤」と距離が近く、関連が強い。

#### 4 就労・休職経験の有無と理想の歯科医師像

各項目における代表的な回答例を表6に示す。出現頻度による有意性テストでは就労・休職経験者では「活躍」、非就労者では「社会」、「腕」、が上位となっており、下位のキーワードはなかった。就労・休職未経験者では「活躍」、「社会」が下位のキーワードとなった(表7)。

構成要素変数の成分スコアによる布置図を図2に示す。座標軸の上方では、「職場」、「勤務形態」といっ

表 7 就労・休職経験の有無による分類でのキーワードの出現頻度による有意性テスト

		就労・休職経験者	就労・休職未経験者	非就労者
上位	1 2	活躍		社会 腕
下位	1 2		活躍 社会	

キーワードの出現頻度による有意性テストでは、各グループを有意に特徴づけるキーワードが上位に、各グループと有意に関係のないキーワードが下位に配置される。

た周囲・環境に関するキーワードが多いため「周囲・環境」と、下方では、「腕」や「自分自身」と回答者自身に関するキーワードが多いため「自身」と軸を名付けた。左方向では、「ブランク」、「活躍」といった向上・復帰をイメージするキーワードが多いため「向上・復帰」と、右方向では、「無理なく」、「サポート」といった安定をイメージするキーワードが多いため、「安定」と軸を名付けた。布置図の位置は、それぞれ就労・休職経験者は左側上方、就労・休職未経験者は中間、非就労者は左側下方に位置していた。就労・休職経験者は、「女性歯科医師」、「復職」、「対応」と、就労・休職未経験者「歯科治療」と、非就労者は、「大切」、「地域」、「向上」と距離が近く、関連が強い。

## 考 察

今回の結果では、女性歯科医師が考える理想の歯科医師像はワークライフバランスを重視し、そのバランスの割合や重視する部分は結婚、子供、就労、休職経験の有無といった状況によって異なっていることが伺えた。

回答者の理想の歯科医師像は、「家庭」や「両立」といったキーワードの出現頻度が高いことから見ても、女性歯科医師自身の環境に触れたものが多い。今回は、女性歯科医師のキャリア形成やライフプランに影響を与える要因を検討する目的でアンケートを行った。自由記載である理想の歯科医師像の回答までに、結婚、子供の有無などの回答者自身の生活環境や勤務形態、勤務への満足度、必要とする社会の制度などについて質問したことが、記載内容に影響を与えたと考えられる。有効回答者105人中、歯科治療の技術や患者との関係性のみではなく、自分自身の環境について記載していた回答者は73人(69.5%)であった。女性歯科医師自らがどのような理想の歯科医師像をイメージしているかを把握することは、男女共同参画社会実現のための取り組みを行っていく上で有用な情報となると考える。特に、その中でも、今回多くの女性歯科医

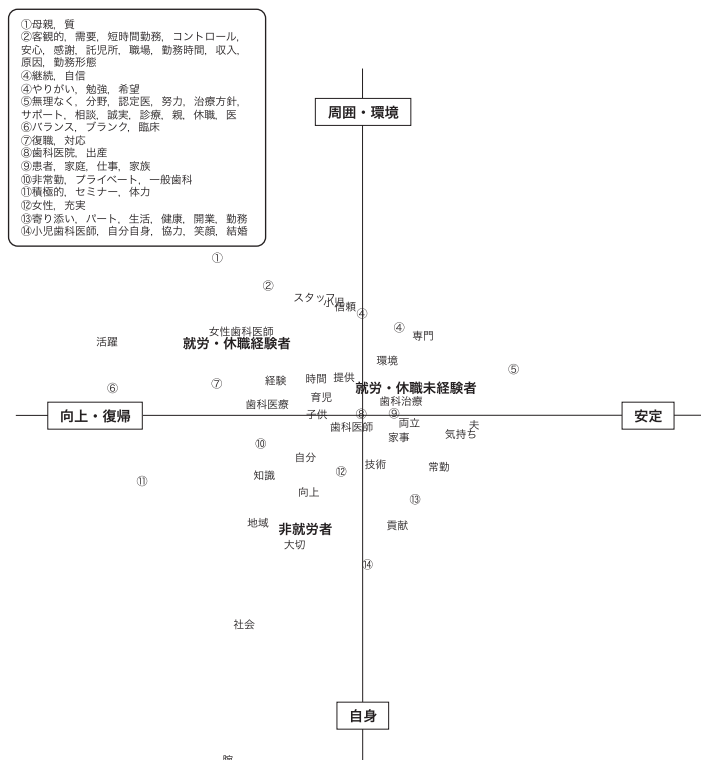


図 2 就労・休職経験の有無における構成要素変数の成分スコアによる布置図  
位置がほぼ同じキーワードについては丸付き数字で示す。それぞれのキーワードは、Word Miner<sup>®</sup>を用い、就労・休職経験の有無を変数とした場合に算出された成分スコア 1 (横軸), 成分スコア 2 (縦軸) によって配置されている。

師が回答したような自身の環境改善が重要な課題である  
と考える。

女性医師<sup>4)</sup>も女性歯科医師<sup>5)</sup>も、仕事の上での悩み  
で最も多かったのは家庭と仕事の両立であると報告  
されているが、今回の女性歯科医師を対象とした理想  
の歯科医師像の分析結果でも、ワークライフバランス  
を重視していることが伺えた。また、平成 21 年の奈良  
県が行った女性の就業等意識調査においても、女性が  
働く上での主な不安や悩みとしては、仕事と家庭の両  
立が難しいことが最も多い<sup>6)</sup>と報告されている。医療  
従事者だけでなく、女性が就労する上では仕事と家庭  
の両立は大きな問題であり、本調査の回答者にとつ  
ても大きな悩みであると思われる。その背景には、「夫  
は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という固定  
的性別役割分担意識が、日本は欧米諸国と比較すると  
強く残っている<sup>7)</sup>ことが挙げられる。平成 21 年の内閣  
府の調査<sup>8)</sup>でも、固定的性別役割分担意識を男性で  
45.9%、女性で 37.3%、全体では 41.3%が「そう思う」  
もしくは、「どちらかと言えばそう思う」と回答して  
いる。歯科医師の場合、固定的性別役割分担意識の男  
女の差が大きく、平成 22 年の日本歯科医師会の調査<sup>9)</sup>  
では、固定的性別役割分担意識について男性歯科医師  
は 47.4%、女性歯科医師は 23.3%が「そう思う」もし

くは、「どちらかと言えばそう思う」と回答している。  
また、女性歯科医師への調査<sup>10)</sup>では、実際には女性  
歯科医師が職場において家庭と仕事を両立しやすい配  
慮がなされているかは判断がつかねる状況にあり、  
今後、男性歯科医師への意識改革も含め、女性歯科医  
師が仕事と家庭を両立させやすい職場環境が整って  
いくことが望まれる。

また、ワークライフバランスの割合や重んじる部分  
は、結婚、子供、就労、休職経験の有無といった状況  
によって異なっていた。既婚・有子者は、布置図では  
歯科医師としての自分と家庭の中での自分のほぼ中間  
であり、かつやや内面への意識が強い場所に位置して  
いること、およびキーワードの有意性テストで「バラ  
ンス」が上位になっていることから、女性の歯科医師  
として、自分自身を向上させながら仕事と家庭の両立  
を重視していると考える。既婚・非有子者は、布置図  
では家庭の中での自分、およびやや外への意識が強い  
場所に位置していること、およびキーワードの有意性  
テストで「家事」、「夫」が上位になっていることか  
ら、家庭をやや重視し、他者との関係を意識して  
いると考える。未婚・有子者は、布置図では歯科医師  
としての自分、およびやや内面への意識が強い場所に  
位置していることから、歯科医師としての自分自身の内面

を意識していると考え。未婚・非有子者は、布置図では歯科医師としての自分、およびやや外への意識が強い場所に位置していること、およびキーワードの有意性テストで「専門」が上位になっていることから、歯科医師として働きつつも、歯科医師として、女性として周囲環境を整えていくことを重視していると考え。また、就労・休職経験者は、布置図では周囲・環境へと向上・復帰への意識が高い場所に位置していること、およびキーワードの有意性テストで「活躍」が上位になっていることから、周囲などとの関係を意識しつつ、歯科医師として復帰や向上を目指すことを重視していると考え。就労・休職未経験者は、布置図では周囲・環境へと安定への意識がやや高い場所に位置していることから、周囲への関係を意識しつつ、これまで継続的に就労してきた歯科医師としての仕事への安定を意識していると考え。一方、キーワードの有意性テストでは、「活躍」と「社会」が下位になっており、この結果は就労・休職経験者で「活躍」が上位になっている結果と正反対である。これは、休職を経験したことがなく継続して働いているため、歯科医師として活躍することや社会への貢献といったことをあえて意識する必要がない、もしくは意識したことがないことを意味していると考え。やはり、歯科医師として活躍する、社会へ貢献するといった考えは、休職することによって、そして歯科医師として復帰を願うことによって生まれる感情ではないだろうか。非就労者は、布置図では自身へと向上・復帰への意識がやや高い場所に位置していること、およびキーワードの有意性テストで「社会」、「腕」が上位になっていることから、自身の向上を目指すことを重視していると考え。

女性のライフコースの傾向は年々変化している。第9～第15回の出生動向基本調査<sup>11)</sup>の結果でも、未婚女性の予定ライフコース、男性がパートナーに望むライフコースのいずれにおいても、専業主婦コース、再就職コース（結婚、出産を機に離職、子育て後再就職）が年々減少傾向にあり、両立コース、DINKSコース（結婚はするが子供は持たず、仕事を一生続ける）、非婚就業コースが増加傾向にある。この5コース以外にも、結婚、出産や転職のタイミングを考慮するとライフコースは多様化しており、女性歯科医師も同様の傾向にあると思われる。働く女性支援というと、時短勤務や子育て支援システムといった育児に対する支援ばかりを思い浮かべがちだが、ライフコースの多様性が増している現在、女性歯科医師への支援も多様性が必要であると考え。高齢化が進む日本において、家族の介護は避けて通れない問題であり、今後は介護に対するサポートも必要となる。女性歯科医師に様々なライフイベントがある中、どの時期にライフ

イベントを行うことになっても、仕事との両立ができるようなサポート体制の整備が望まれる。また、女性小児歯科医が結婚・出産後も仕事を継続していく上で夫や家族の支援を一番大切であるとしている<sup>5)</sup>ことから、女性歯科医師のみが支援を受けるのではなく、男性歯科医師を含むすべての就労者にとって家族のことを考えやすい環境を整備することも大切であると考え。

## 結 論

女性歯科医師が考える理想の歯科医師像は、ワークライフバランスを重視していることが伺え、そのバランスの割合や重んじる部分は、結婚、子供、就労、休職経験の有無といった状況によって異なると考えられる。

本論文には報告すべき利益相反事項はありません。

## 文 献

- 1) 厚生労働省大臣官房統計情報部厚生労働省. 大臣官房統計情報部人口動態保険統計室. 平成26年医師・歯科医師・薬剤師調査の概況. <http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/ishi/14/> (最終アクセス日 2017. 1. 14).
- 2) 日本歯科医師会. 歯科医師のみなさま 女性歯科医師. <https://www.jda.or.jp/dentist/female/> (最終アクセス日 2017. 2. 21).
- 3) 塩津範子, 桑山香織, 河野隆幸, 大塚恵理, 武田宏明, 他. 女性歯科医師のキャリアに影響を与える要因に関する研究—岡山大学病院臨床研修女性歯科医師へのアンケート調査: 結婚・子供の有無の影響—. 岡山歯学会雑誌 2015; 34: 47-51.
- 4) 日本医師会男女共同参画委員会, 日本医師会医師再就業支援事業. 女性医師の勤務環境の現況に関する調査報告書. [http://dl.med.or.jp/dl-med/teireikaiken/20090408\\_2.pdf](http://dl.med.or.jp/dl-med/teireikaiken/20090408_2.pdf) (最終アクセス日 2017. 1. 28).
- 5) 馬場篤子, 渥美信子, 林・坂井幸子, 平野慶子, 人見さよ子, 他. 日本小児歯科学会に属する女性小児歯科医への本音トークアンケート結果. 小児歯科学雑誌 2012; 50: 383-392.
- 6) 奈良県. 女性の就業等意識調査. <http://www.pref.nara.jp/15957.htm> (最終アクセス日 2017. 1. 28).
- 7) 内閣府男女共同参画局. 男女共同参画白書 平成19年版. <http://www.gender.go.jp/about/danjo/whitepaper/h19/zentai/index.html> (最終アクセス日 2017. 1. 28).
- 8) 内閣府男女共同参画局推進課. 男性にとっての男女共同参画について. 共同参画 2012; 50: 2-7.
- 9) 社団法人 日本歯科医師会. 歯科医師会における男女共同参画等に関するモデル意識調査報告書. [https://www.jda.or.jp/dentist/female/pdf/genderequality\\_h2206.pdf](https://www.jda.or.jp/dentist/female/pdf/genderequality_h2206.pdf) (最終アクセス日 2017. 1. 28).
- 10) 社団法人 日本歯科医師会. 女性歯科医師の活躍のための環境整備等に関する調査報告. [https://www.jda.or.jp/dentist/female/pdf/genderequality\\_h2802.pdf](https://www.jda.or.jp/dentist/female/pdf/genderequality_h2802.pdf) (最終アクセス日 2017. 1. 28).
- 11) 国立社会保障・人口問題研究所. 第15回出生動向基本調査. [http://www.ipss.go.jp/ps-doukou/j/doukou15/doukou15\\_gaiyo.asp](http://www.ipss.go.jp/ps-doukou/j/doukou15/doukou15_gaiyo.asp) (最終アクセス日 2017. 1. 28).

## 著者への連絡先

塩津 範子

〒700-8525 岡山県岡山市北区鹿田町 2-5-1

岡山大学病院 総合歯科

TEL 086-235-6751 FAX 086-235-6751

E-mail : gmd422105@s.okayama-u.ac.jp

---

Ideal dentist images considered by female dentists  
— Analysis of questionnaire survey of female dentists completed the course of  
post graduate clinical training at Okayama University Hospital —

Noriko Shiotsu<sup>1)</sup>, Kaori Kuwayama<sup>1)</sup>, Takayuki Kono<sup>1)</sup>,  
Hiroaki Taketa<sup>2)</sup>, Koji Suzuki<sup>3)</sup>, Hajime Shirai<sup>1)</sup>,  
Toshiko Yoshida<sup>4)</sup> and Yasuhiro Torii<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup> Comprehensive Dental Clinic, Okayama University Hospital

<sup>2)</sup> Dental Education Reforming Unit, Center for the Development of Medical and Health Care Education,  
Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences

<sup>3)</sup> Hospital Management, Okayama University Hospital

<sup>4)</sup> Dental Education, Center for the Development of Medical and Health Care Education,  
Okayama University Graduate School of Medicine,  
Dentistry and Pharmaceutical Sciences

**Abstract** : We conducted a questionnaire-based survey to examine factors that influence the career development and life plan of female dentists. Overall, 188 female dentists, who completed the course of post graduate clinical training at the Okayama University Hospital from the 2006 to the 2012 academic year, participated in the survey. Here, we used text mining software to analyze the image of an “ideal dentist” of a female dentist. Female dentists not only considered the dental treatment technique and relationship with the patient but also their living environment for work-family balance. While “dentist” was the most commonly recorded keyword in the questionnaire responses, “work,” “home,” “patient,” and “compatibility” were also frequently recorded. Results of the analysis confirmed that the ideal dentist of female dentist gave importance to work-life balance. Between work and family, the aspect that received higher priority changed depending on circumstances such as marriage, children, employment, and unavailability of leaves. While it is evident that the life course of a female dentist is diversifying, developing a support system compatible with work is necessary, regardless of the life stage. Furthermore, it is important for all workers, including male dentists, to develop an environment conducive to the maintenance of family priorities while pursuing their profession.

**Key words** : female dentist, ideal dentist image, questionnaire survey, work-life balance